

《巻頭言》

2020年に期待を込めて

(一社)神奈川県建築士会会長 金子 修司

新年明けましておめでとうございます。
2020年が皆様にとりまして希望にあふれた年となることを祈念いたします。

いよいよ今年オリンピックイヤー、建設関連産業を中心として活況を呈しておりますが、社会全体を覆う先行きの不透明さや、大きく変化しつつある社会構造、人口減少、高齢化等への対応など大変難しい時代でもあります。

さらに自国優先主義を掲げるアメリカと中国、EC離脱が確実視される英国、ヨーロッパを中心とした各国間の利害関係の複雑さは正に不安定な国際情勢そのものであり、国際政治、外交の場でのプレゼンスを確たるものにする努力が必要でと思われま

す。地球環境への積極的な発言など日本に期待する諸外国からの理解と協力を大切にしたいと考えます。

さて、今年もまた、建築士会にとって最大の課題である会員減少についてをお願いをいたします。建築士会をあげての会員減少対策により多少の効果を挙げる事はできつつありますが、会員の減少傾向は止まりません。建築士会の存在意義を見直し、継続的に施策を講じておりますので、更なるご協力とご理解をお願いします。

今年から建築士法の改正によって試験制度が大きく変わりました。実務経歴は学科試験合格の後に審査し、免許を登録することとなり、若い世代にとって受験しやすくなりました。若いうちに合格し、経験を重ねて大いに活躍してください。

オリンピックスタジアムも完成し、お披

露目が話題になりました。首都東京の新しい都市景観が魅力的です。一方で丹下健三設計の代々木の競技場がリノベーションにより見事に

リニューアルされました。日本を代表するモダニズム建築、まさに記念碑的建築物としての存在価値を内外に示した良い例であると思います。

東京ではバブル時代の再来を思わせるビッグプロジェクトが目白押しですがデザインビルド的な手法や設計者、施工者の責任が見えにくい手法での計画が目に入ります。

かつてあこがれの職業であった様に、建築家、設計者の存在にもっと光を当て、若い人々が建築に魅力を感じ、社会からの評価も受けられるような社会を期待したいと考えます。またそのために建築の専門家として自己研鑽を怠らず、社会から信頼されリスペクトされる建築士、誇りを持つ職能人の専門家集団である建築士会の存在が大切になります。

本年も皆様とともに暮らしやすい街、安全な街、美しい街づくりを目指してまいります。

今年もよろしくお願ひいたします。



令和元年9月21日、第62回建築士会全国大会「北海道大会」が函館市の函館アリーナにて開催されました。大会は、「全国建築士フォーラム」「全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会」が前日20日に行われ、当日21日には、8つのセッション、記念講演、大会式典と続き、その後は函館アリーナ2階にて大交流会が開かれました。22日には地域交流見学会（エクスカッション）が5コースに分かれ、多くの会員の方々が函館の歴史的建造物や街並みに触れました。神奈川県建築士会からは、48人の方々が参加され、レポートを頂きましたのでご紹介します。（編集部）

函館から全国に向けた大会宣言

情報広報委員会 小笠原 泉

令和元年は都道府県の中で唯一の「道」として「北海道」が1868年(明治元年)に命名されてから151年、そして函館は長崎、横浜とともに1859年の開港から160年を迎えるなど、函館は記念行事の多い年となりました。天然の良港である函館、長崎そして横浜とも数多くの類似点があります。海をのぞむエキゾチックな坂とまちなみ、丘に建つ多くの教会、イギリス領事官など海外機関の施設、堅固な金融機関の建築物、赤煉瓦倉庫、長崎とともに残る路面電車など。ともに160年前に開港した3都市は政治・経済・文化の面で多くの歴史資産と独特の景観を残しています。

そのような歴史的資産を豊かに持つ函館での全国大会でしたが、一方、全国で豪雨災害等の発生や台風の直撃被害などが相次いだことから、様々なセッションに加え、わが国の喫緊の課題である自然災害への対策・対応を重点とした議論も数多く見受けられました。このことは対峙すべき社会的課題として大会宣言にも表れています。特集のはじめに、頻繁に発生した災害対応を踏まえた北海道大会における「大会宣言」を紹介いたします。

- 一、自然災害への対応やまちづくり活動などに、専門家集団として、常に起動できる体制を自治体と連携して備える
- 一、技術の伝承、産業の持続的発展のため、担い手が働きやすい環境整備に努める
- 一、建築士会活動が円滑に機能し、継続するために共感できる会員の獲得に努める

函館の地から全建築士の声として全国47都道府県に発信された大会宣言です。

大会式典

川崎支部 金子成司

函館アリーナにおいて開催された大会式典は、三味線と尺八の音色が響く津軽海峡に面する地域ならではのオープニングセレモニーではじまりました。

初めに北海道建築士会高野会長よりご挨拶がありました。昨年9月の「北海道胆振東部地震」では道内の被災地への会員活動に触れる発言もあり、毎年全国規模で建築士のかかわる活動の必要性も感じました。また、人口減少から会員活動などの厳しさも面積の大きい自治体ならではの苦労も感じました。

その後、日本建築士会連合会三井所会長挨拶ののち、連合会会長表彰、伝統的技術者表彰、連合会作品表彰等続き、北海道知事や函館市長からも祝辞を頂きました。式典の最後には、来年度の大会開催地でもある広島県建築士会に大会旗が引き継がれ、広島県建築士会会員とともに開催アピール動画が上映されました。

会場外には、函館地域における名産品や飲食ブースが多数出展し、私は「特製いくら丼」をおいしくいただき。金子会長からも「美味しそうなウニが乗っているね!」とお褒めの言葉も頂きました。その後の大交流会でも、同様に多くの参加者のお腹を満たすこととなりました。



記念講演

—Between Nature and Architecture—

藤本 壮介氏

横浜支部 角 桂介

「自然と建築の間」と題した講演は、私にとってなにかふわーっとした印象で、残念ながらあまり共感できる内容ではなかった。

藤本氏は、自然を「安心感のある守られている空間」とし、建築の例として「東京＝小さな建物の集合」ととらえ、それが意外と似ていると感じ、その共通点を見出すことに興味を持っていると言う。

私が大学の建築学科に進学した 1970 年代後半は、ポストモダンの黎明期で建築界がモダニズムに対する対案を模索している時期で、私の恩師（故木島安史先生）も、ポストモダンの先駆者的な評価をされ、多くの作品を発表していた。その後、脱構築主義など様々な形でモダニズムから脱皮し、次の時代の建築の命題を模索してきたのが 20 世紀末の建築界であったと理解している。

藤本氏の講演を聞いた直後は、なんだか私小説を聞いている感覚で、「次世代の建築は」などと大上段に構えず、自分自身の建築に対するテーマをさらっと言い放っているように感じられた。

藤本氏に関する知識が全くなかったので、北海道から帰って氏の著書「建築が生まれる時」（2010 年発行）を読んでみた。簡単には要約できないが、近代（＝モダニズム）を、「全てを整理する時代」ととらえ、「整理しえないものをそのまま建築化する」、「自然と人工の間のような場所」を創出することで、近代を超え新しい建築を創造しようとしているように思えた。その方法、考え方に普遍性があるかどうかには疑問が残るが、その姿勢には共感できるものを感じられた。

実務に追われる日々のなか、久方ぶりに「建築」を考えるきっかけとなった。



モンペリエの集合住宅

景観・街中（空き家）まちづくりセッション

県庁職域支部 村島 正章

昨年の全国大会では、「空き家等の利活用における建築士の役割」をテーマとし、空き家対策には多数の専門家の力が必要で、建築士は全体のまとめ役という立場であるということが確認されました。今大会では、「空き家等の適正管理と利活用による景観の向上での建築士の役割」をテーマに 3 つの事例報告とパネルディスカッションが行われ、冒頭、米村街中まちづくり部会長と森崎景観まちづくり部会長から、各県建築士会地域リーダーあてのアンケート結果について説明がありました。

北海道士会 榊氏からは、「しりべし空き家 BANK のしくみと活動」ということで、国からの委託を受けて空き家 BANK を立ち上げ、その後、国・市町村・士会・業界団体で構成する協議会を設立して自主運営とし、H28 年度からはインスペクションを有償で行うことで、仲介物件の信頼性が向上したなどの取り組みの報告がありました。

奈良県士会 佐藤氏と福本氏からは、地区内に全国一多い対象建物が残る重伝建の街、橿原市今井町において、地元医科大学との連携による MBT（ライフス



スタイルに応じた医療サービスが効率よく提供され、文化的かつ健康的な社会生活が保障されたまちを意味する）構想の状況について報告がなされました。

大分県士会 渡邊氏からは、「空き家は負債から資源へ」ということで、ある青年部会部長が自ら空き家を購入し事務所兼民泊として利活用する中で、徐々に地域の輪が広がってきているとの報告がありました。

パネルディスカッションでは、どうすれば適切な管理が維持できるのかなど 3 つのテーマについて話し合いがなされました。年々増え続ける空き家対策につ



いて、強力なカンフル剤はありませんが、各県士会が個性的で多方面の取り組みを始めていることを知る機会として、有効なセッションだったと思います。

大会の後は、函館山からの夜景、小樽の鯉御殿、札幌市内にある建築家の自邸「上遠野邸」、台風の影響で 1 日宿泊増やして北大構内や重文の豊平館などを見学し、今回も記憶に残る有意義な全国大会となりました。

福祉まちづくりセッション

横浜支部

松田 典子

今年オリンピック・パラリンピックの年ですね。世界中から様々な人が日本にやってきます。私達は本物のおもてなしをすることが出来るのでしょうか？

9月21日(土)10~12時、函館アリーナ1F多目的会議室Bにて、福祉まちづくり部会「全国の観光バリアフリーと建築士について」ハード整備とソフト対応のわかる建築士の育成、バリアフリー観光地・地域づくりにおける建築士の役割についてのセッションが行われました。

まずはユニバーサルツーリズムに関する国の政策上の位置付けと高齢者障がい者の旅行者の最近の動向について等、バリアフリー補助金も含めた紹介が観光庁の方からありました。

次に、松江・山陰、福島、伊勢志摩の各バリアフリーツアーセンターに建築士として所属されている方々からの報告、北海道、沖縄、佐賀嬉野、鳥取、京都などの事例も話に上がりました。

バリアフリー改修をして集客が10倍に増えた事例や些細な工夫で喜ばれている事例などを具体的に紹介する反面、改修したのに使われていない設備や車いすの目線に手すりがあって競技が見えにくいパラリンピック会場の車いすスペースについてなどが報告され、建築士として考えさせられることが多いと感じました。



福祉まちづくりセッション会場の様子

世界中から注目される今年、私たち建築士が関わっている事はすべて、誰に対しても「おもてなし出来る空間づくり」であると自覚していかなければと思いました。

防災まちづくりセッション

横浜支部

雨森 隆子

建築士会連合会には、まちづくり委員会があり、景観まちづくり、防災まちづくり、歴史まちづくり、街中(空き家)まちづくり、福祉まちづくりの5つの部会で構成されています。

全国大会では、この部会に沿ったセッションが開催され、防災まちづくりセッションに参加しました。単位士会の防災活動の促進のため、運営、目的、活動の基本方針が示されました。

基本方針として、①. 地域や行政と被災前から「普段付き合い」を実施 ②. 「事前の備え」として、自治体との協定締結に向けた活動 ③. 単位士会の実施として、被災前の自治体との連携が可能な防災まちづくり活動が具体的に列記されました。

「建築士会事前防災活動指針」および「被災住宅復旧マニュアル」の更新・拡充についての報告。上記の活動指針やマニュアルは、連合会防災まちづくり部会のホームページよりダウンロードできます。

また、「木造応急仮設住宅の供給に関する連絡協議会」の設置とその供給体制構築が検討中の報告がありました。続いて、単位士会へ今年6月に実施したアンケート結果の中間報告から、応急危険度判定の協定とその活動、罹災証明等の支援協定、防災まちづくり活動の取組状況等について、実際活動されている単位士会の少ない事が分かり、活動の難しさを感じました。アンケートの回収率59%と低いことから、まだまだ活動されて無い単位士会が多いと思われます。

その後、事前防災活動として、和歌山県から応急木造仮設住宅の施工体制の整備、徳島県は、応急仮設住宅の配置計画マニュアルについて、被災後の取組から、愛媛県の豪雨災害取組について発表され、防災活動が、単会だけではできない事、自治体等の連携の重要性を感じるばかりでした。



環境部会セッション

湘南支部 岩倉 朗子

以前から関心のある建築環境について最新の動向を知りたいと思い、2年ぶりに環境部会セッションに参加してきました。一昨年前のテーマは「気候風土型認定住宅」でしたが、今年は「SDGs」でした。

始めに連合会環境部会長である中村勉氏より、SDGsについての全体的なお話があり、今まで何となくしか把握できていなかったSDGsについて、17の目標それぞれと建築との関わりについて具体的に理解を深めることができました。

その後、長野県・北海道下川町・北海道ニセコ町でのSDGsの実現に向けた取り組みについての発表がありました。

長野県では県をあげて地球温暖化対策と環境エネルギー対策を統合した環境エネルギー戦略を進めており、既にほぼ全ての建物の新築・改修時に省エネ効果の検討を義務付けているとのことでした。

下川町では地元森林資源を活かす循環型森林経営を目指す中で、公営住宅を環境配慮型バイオビレッジとして改修し集住することで超高齢化社会にも対応した事例報告があり、興味深く思いました。

ニセコ町は近年パウダースノーが人気で冬になると外国人住民が激増するという状況の中、国からSDGs未来都市に選定され、世界標準の先進地を目指し持続可能なまちづくりを進めるべく、試行錯誤されている状況が報告されました。

発表の後は、会場との意見交換がなされ、我々建築士がSDGs実現のためにどのように関わり取り組んでいくべきかの議論の中で、福祉・防災・空き家問題等、全てのセッションがSDGsに関わっているというお話が強く印象に残りました。

今後もSDGsはじめ建築環境に関わる情報を得ながら、自らの仕事の中でどう取り入れていくべきか、引き続き考えていきたいと思いました。



歴史まちづくりセッション/

第7回ヘリテマネージャー大会

景観整備機構委員会 赤川真理

テーマは「歴史的建物を使い続ける～持続する地域・まちづくり～」。北海道内各地で建築士が取り組んだ事例を紹介し、後藤治氏のコーディネートのもとパネルディスカッションが行われました。

北海道内の4つの事例を5人のパネラーによる発表がありました。一つ目は、稚内では、戦争にまつわる建物が多く残っているとのことで、まず、その中で屋根が落ちた赤煉瓦通信所の復元するため、修繕費用や人員をどうするかという問題に取り組んでいることが紹介されました。

二つ目の中標津では、取り壊しが決定していた農業試験場の伝成館についての報告でした。NPOの活動により活用されることとなり、復元されたのち、永続していくために運用をどうするかと、今後の老朽化についての心配があると問題提起がありました。

三つ目の帯広では、双葉幼稚園の文化財登録をし、その後のメンテナンスについてのヘリテージマネージャーの役割が模索しての活動であったという問題提起がありました。

四つ目の函館では、市内の建物を修繕するだけでなく、街並みを造る「修景」という取り組みも担っているという報告でした。

それぞれ歴史的建物の修復後の有効な活用方法を模索し議論されました。特に、函館の活動は、ヘリテージマネージャーの新たな役割を作り出し実践している活動が紹介され、地域の景観、景色を修繕していくという担い手になっている理想的な姿であるように感じられました。パネルディスカッションの中で、ヘリテージマネージャーには、建築士と建築士以外の方の連携をどうとっているか全国の活動が紹介され、建築士だけの活動では限度あることと、職人とのつながりや活用を考えるコーディネーターの必要性を今後考えていかねばとも思いました。



写真
函館市内の
改修された
建物(修景
のひとつ)

特集 全国大会

地域交流見学会（エクスカージョン）

函館の歴史的建造物街並見学

女性委員会 横浜支部 清水麻紀

コース概要；9：00 函館市地域交流 まちづくりセンター（集合）東本願寺函館別院→カトリック元町教会→函館ハリストス正教会→旧北海道庁函館支庁庁舎（函館市元町観光案内所）→旧相馬邸→旧イギリス領事館→旧日本銀行函館支店（函館市北方民族資料館）→旧第一銀行函館支店（函館市文学館）→12：00 赤レンガ倉庫群（解散）

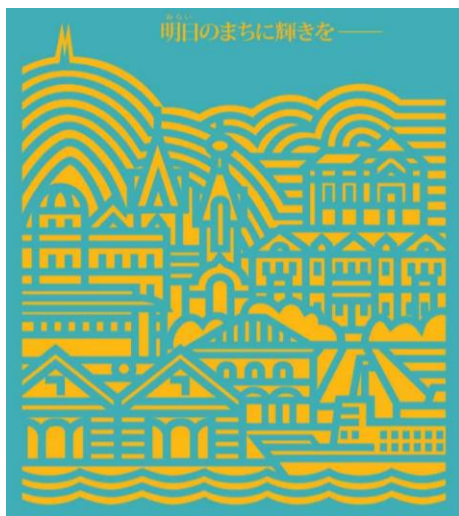
天候に恵まれ、さわやかな風と開放感のある函館港を望む坂の町で、まず坂を上りそして、水平移動して、坂を下り、港の船着き場の前で解散という2キロを建物内見学も含めて足早に踏破しました。



左写真
八幡坂にて（函館屈指のビュースポット）海まで一直線の広い石畳の坂。海にはフェリーが見えています。

途中の旧相馬邸は中をじっくりと見学しました。函館の度重なる火災の復興のために豪商である相馬氏が建てた国指定重要文化財は特に見どころも多く、和の空間としてとても素晴らしいと思いました。

「旧相馬邸」にてHPを検索すると充実した内容を見ることが出来ます。晴れていたのと午前中の光で、とても明るく気持ちよい空間でした。



今回のコースとかけて全国大会ポスターのデザインと比較します。よく眺めると、下から海、フェリー。金森の赤レンガ倉庫群。函館ハリストス正教会。旧函館公会堂。函館

山のトンガリはロープウェイ駅。まさに函館の一部を切り取ってさらに文化的な建物が雰囲気シルエットそのまま、坂も入っていて感心しました。

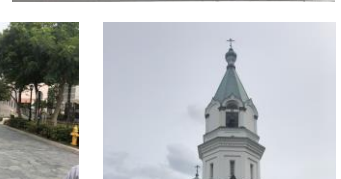
地域交流見学会（エクスカージョン）

函館の重要文化財見学

川崎支部 上原伸一

はるばるきたぜ函館へ

全国大会に参加するために久しぶりに函館を訪れ、1日目は大会式典、大交流会、神奈川会二次会、2日目は函館の重要文化財見学に参加してきました。



このたびの全国大会「北海道大会」で表彰された皆さんをご紹介します。おめでとうございます。

■連合会長表彰



米山 昇 氏 (小田原地方支部)

元小田原市役所
都市部参事 建築指導課長
小田原地方支部相談役

「連合会会長表彰を受け感激の一言です。今後も士会発展の一助になれば幸いです。」



有泉 ひとみ 氏 (相模原支部)

ひとみ設計工房
相模原支部 女性委員会
福利厚生委員会委員

「光栄な賞をありがとうございました。建築士会の活動があったので、辛い事も乗り越えられたと思っています」



原 昌吾 氏 (県央支部)

(株)原昌吾企画設計 相談役
本会理事4年、支部長6年
福利厚生委員会委員

「皆様よりご推薦頂き、表彰を受ける事が出来大変光栄に思います。今後も士会活動を続ける所存です。」



金子 修司 氏 (横浜支部)

(株)金子設計 代表取締役会長
本会会長、連合会理事

「皆様のご推薦により表彰を受けることが出来ました。感謝いたします。これからも皆様と共に士会の発展に力を注ぎます。」



次回、第63回建築士会全国大会は『広島大会』。2020年11月14日(土)に広島グリーンアリーナで開催されます。今回参加が出来なかった皆さん、次回広島大会へぜひ、ご参加ください！

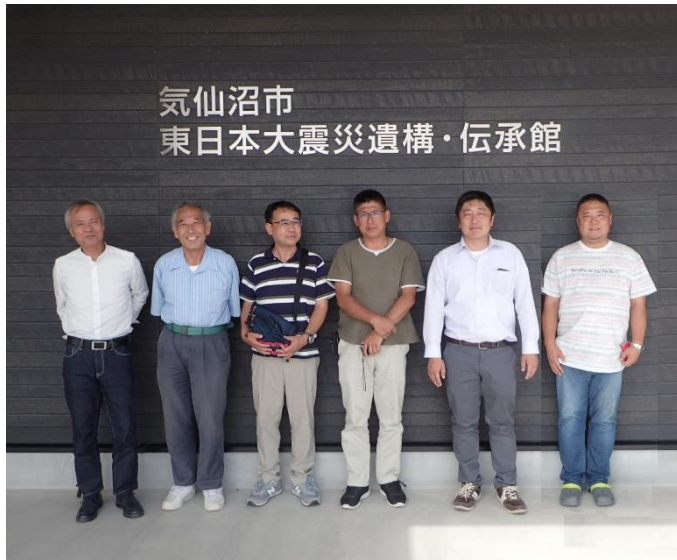
【広島大会HP】<http://www.k-hiroshima.or.jp/event/>

【宮城県被災地再訪問】

東日本大震災復興支援研修旅行 2019

横須賀支部 長谷川 洋

令和元年9月13日・14日横須賀支部の仲間6名で東日本大震災の被災地へ向かいました。気候は穏やかで雲一つない晴天の中、三陸海岸を車で走り各地を見学してきました。



集合写真

日本中が恐怖したあの日より8年、町の状況は当時の面影を残すことなく波に流され、人々は町から離れているかのように観光に訪れる方々のみが目立っていたように見えました。完全に復興するまでにはかなりの年月を要することをあらためて見せつけられ、海岸や河川には途切れることがない防潮堤が続いていました。震災当時は、行く先の不安を感じながらラジオに耳を傾けていたのを思い出します。誰もが今までに経験したことのない自然の驚異をまざまざと見せつけられ、脱力し 耐え難い悲しみに更けていたに違いなかったはずが、目の前にそびえ立つ防潮堤は今なお自然の大きな力に対抗しようとする力強さを感じさせる一方、先人たちが豊かな海と共に暮らしてきた歴史に目を背けているようにも感じました。

建築物は歴史とともに形式やデザインは変わっていくでしょうが、その時代を部分的に反映されることがあるならば、後世の方々がそれを見たときに何を感じるのか。あの巨大な防潮堤は人々に当時の記憶を消し去ることがないようにその形をとどめていくでしょうが、物事に完全な結論がなく曖昧な部分が常に存在するように、誰もが落胆したあの際の自然の力は、今も建築され続けている防潮堤が後世の人々を守るという使命のほかにはいったい何を発信し続けていくのか。あらためて、建築人として私の今後の仕事に対する物の考え方を掘り起こし、実行に起こす勇気と力をいただいたと思います。

【建築士のしごと展】

横須賀支部 戸井田 顕

令和元年11月1日(金)～11月5日(火)の日程で、横須賀文化会館市民ギャラリー1で「建築士のしごと」をテーマに展示会を行い405名の入場者を記録しました。また、展示には横須賀支部に所属する14名の建築士が参加し、パネルや模型など約90点の展示物を展示しました。

建物の竣工写真や計画中の物件の模型やCGパースなどの展示は一般的ですが、今回は、「建築士のしごと」をテーマに、これまで行ってきたような完成物件や計画中の物件の紹介だけではなく、建築士が普段どのように仕事をすすめているのかそのプロセスが分かるような展示も行いました。

人口減少や高齢化などの社会的な変化を反映して、建築士の仕事も新築だけではなく、リフォームやコンサルティングなど幅広い業務を行うようになってきています。そうした状況だからこそ、建築士の本業である設計がどのようなものなのか、今一度多くの人たちに知ってほしいと思い今回は「建築士のしごと」というテーマを設定しました。

こうしたテーマ設定だったため、展示内容も非常に密度の濃いものになり、写真が多い通常の展示に比べて、来場者にとってはハードルがあがってしまっただけで読むのが大変だった面もあったかもしれません。しかしながら、熱心にパネルを読む人も多く、非常に好意的な評価もいただくことができました。



展示会場

また今年度から、展示会場を3Dデータで記録する試みも始めました。まだ始めたばかりの試みですが、展示風景を記録に残すとともに、次年度の会場設営の参考にしたり、会場まで足を運ばない方たちのためのバーチャルツアーを行うなど、今後、データの活用を幅を広げてゆきたいと考えています。

【「市民と対話」かわさき市民祭り】

川崎支部 金子 成司

11月2、3、4日は、かわさき市民祭りに支部役員を中心に防災啓発活動を兼ねて、建築士(会)のPR活動として出展してきました。今年は特に市内でも台風19号の水害(内水氾濫)があったせいか、建物に対する質問や自分の地域は大丈夫なのか関心の高さが目立った年ともなりました。

内容的には昨年同様、「木造倒壊模型」を使用して応急危険度判定制度の説明。倒壊後は、補強工事に子ども達も参加してもらい防災意識を高めてもらう毎年好評な参加型コーナーになっています。中には、補強工事後倒壊しないと納得できない子ども達も見受けられました。もう一つの目玉は、電動に改良された「液状化実験」です。水槽に一定量の水分を含ませた流動化しやすい均一の砂を使用したシンプルなものですが、液状化し建物の模型が沈んでいく様子を真剣



木造倒壊模型実験の様子

に見る市民たち、自分の地域も本当になるのかと問い合わせに市の防災マップを使用し説明する建築士にこちらに関心度の高い内容となりました。当日は、ヒノキの木屑を無料で配布したり、アンケートに答えると会員のご家族お手製の手作りアームバンドをプレゼントいたしました。アンケートの中には、建築士に対する期待の高さとPR不足のコメントなどが多数あり、私たちも勇気づけられつつあるも反省もある内容となりました。

今年は、お天気にも恵まれ活動ができましたので、他団体とも連携したスタンプラリーも功を奏して忙しい3日間となりました。川崎エリアでは会員同士のつながりから、様々な協力者が毎年参加していただるので本イベントの運営も本当にしやすく、新しい会員にも参加しやすい環境を心がけています。これを見て参加してみたいと思った方は、短時間でも良いので是非参加されてはいかがでしょうか。



集合写真

【ぶらりと、座間鈴鹿・長宿まち歩き】

県央支部 小幡 剛志

11月7日に晴天の中まち歩きを行いました。ホシノタニ団地→星谷寺(しょうこくじ)→鈴鹿長宿→曹洞宗寺院龍源院を3時間30分程度でまち歩きを行いました。

ホシノタニ団地、鈴鹿長宿を座間市役所の職員である浅黄様に案内、当時の苦労話や、経緯、現状をご説明していただきました。



星谷寺

行政と民間が協力し、座間市をよくなるためのまちづくりを考えた、座間市らしさを出すための新しいチャレンジを行っているのが感じられ、とても刺激をいただきました。

ホシノタニ団地では多くの人々が足を運んでもらえるように考えたまちづくりを行っていますので、ぜひ興味をもちましたら、天気の良い日にぶらりと足を運んでみてください。



鈴鹿・長宿

龍源院の見学では、本堂を自由に見学するものだと想定していたのですが、住職にご案内していただきました。本堂の施工時の写真などを用意していただき、伝統工法で施工された、建物の良さ、または苦労している点など建物を管理されている目線での生の声を聴かせていただき、小川三夫棟梁の仕事が堪能させていただきました。

当初は10月25日の開催予定でしたが、大雨の天気予報のため、中止と判断し、延期にて行いました。ご参加していただいた皆様ありがとうございます。また、延期のため参加できなくなった皆様、予定を調整して参加表明していただいたところ中止となり申し訳ありませんでした。

【魅力ある和の空間】

～小田原箱根取材ツアー～

女性委員会 石田 尚見

9月10日に「魅力ある和の空間」の取材見学ツアーとして、小田原・箱根に行ってきました。小田原駅で待ち合わせをし、いざ出発！！最初は「松永記念館老樗荘」。「電力王・松永安左エ門の邸宅」です。近代茶人の一人で、最後の数寄茶人「耳庵 ジョウ」。この建物は、夫人とともに晩年を過ごすために作られたものと聞きました。しかし事業家の茶人らしく、同業の茶人のみならず、今でいう異業種交流の場として自宅を使っただけで、増改築を繰り返したそうです。その結果、部屋毎に工夫があり、それを探するのがとても楽しくなる建物です。素晴らしいと感じたのは現役の建物という事。今でもお茶会の催し物などに貸し出している老樗荘でした。



松永記念館 老樗荘

次は箱根。ここでは近隣で2つの重要文化財を見学できました。一つが「萬翠楼福住」もう一つは「旧岩崎彌之助別邸和館と真光庵」です。萬翠楼自体旅館として使われていますが、重要文化財に指定されているお部屋は見学の為に宿泊客はお断りされているようです。大迫力の天井画があるお部屋から自然の造形を生かして作られたお部屋など、遊び心がそこかしこに残っている建物でした。現役の旅館なので、他の部屋に宿泊のお客は今回拝見したお部屋はいつでも見る事が出来るようですが、当時の時代背景や誰もが知る宿泊客の話など、店主の詳しい説明が聴けた



萬翠楼福住

のは建築士会を通して見学させていただいたからこそだと思います。店主はとても話上手で、お部屋を通して日本の歴史を感じる事ができました。

最後は、旧岩崎別邸と隣接する真光庵ですが、箱根では有名な「吉池旅館」の一万余坪の庭園に保存されています。残念ながら、建物内の見学は不可ですが、温泉に入れば宿泊せずとも近くで建物の傍まで行くことはできます。

締めくくりとして、吉池旅館の温泉に入って取材ツアーは終了しました。取材ということで、ただ見学す

るだけでは聞けない話をそれぞれの担当者から聴くことができ、とても楽しい取材ツアーになりました。次回は是非、一緒に楽しみましょう。

～雨岳文庫見学会～

女性委員会 進藤 美寿々

11月16日、中支部と女性委員会共催の「魅力ある和の空間」見学会―国登録有形文化財・雨岳文庫(山口家住宅)―を開催しました。

山口家住宅は築約180年の古民家で、幕末に曳家をして上粕屋の石倉からこの地に移されています。

外観としては、現在屋根はトタン葺きになっており、懸魚や鬼瓦、持ち送り、式台、曲がり垂木などが印象的であり格式の高さを感じます。

内部は、一階の座敷は書院風、二階は数寄屋風のつくりになっており、堂々たる柱や梁の太さや建具、欄間、組子障子の細工、襖絵などため息が出るほど美しい住宅です。



雨岳文庫玄関(土間)

特に二階は、柱の節を隠す細工や海をイメージした床框のデザイン、など発見が多く皆がほっとまじまじ見学していたのも印象的でした。

また一階の離れは、宮家を迎えるため明治に増築されたそうですがこちらも造作が凝ったものになっており、気遣いの行き届いたデザインになっています。思わず写真をパシパシ撮ってしまいました。

山口家住宅は、歴史的家柄や財力が反映された質の高い住宅であることや当主の山口左七郎が政界へ貢献したことの背景も含め、国の登録有形文化財になっています。

身近にあるとイイモノになかなか気づけなく、足を運ぶ機会とならないものです。歴史的背景を“感じる”“味わう”有意義な時間となりました。



2階組子障子

【地域防災のツボ】

～防災【も】まちづくりのすすめ～

防災委員会委員長 東 二郎

10月25日（金）横浜市開港記念会館1号室に於いて、東京大学生産技術研究所教授/東京大学社会科学研究所特任教授の加藤孝明先生をお招きして、表題の「地域防災のツボ」と題して講演頂きました。

台風20号の影響で朝方雨脚が強く参加者の方の足を危惧致しましたが、42名の参加を頂き、無事講演会を開催出来ました事、感謝申し上げます。

【参加者感想】

講習会直前に到来した大型の台風は、関東信越地方に甚大な爪痕を残した。各地で河川が氾濫し、私の携わった建設現場でも床上浸水する事態となり、かなりの被災者意識を持って参加した会となった。

はじめに、大阪府北部地震、台風15号19号、西日本豪雨、九州北部豪雨、糸魚川大規模火災といった近年の災害を振り返り、豪雨が多発しているのは気候変動による見方も紹介された。その後県下で想定される、首都直下地震や、倒壊後の延焼範囲を示す「延焼運命共同体」について説明頂いた。「延焼運命共同体」は同一火災で延焼する範囲を塗分けた地図上のもので、糸魚川大火災と比較できる構図になっており大変理解しやすかった。仕事柄、火災については意識してきた自覚はあったものの、これ程大きな火災につながるイメージはなかった。

本題の、災害への備え、とらえ方については、印象的な場面が紹介された。高齢な町内会長がPCを駆使し浸水予測について話している写真だった。同じ町に住み、同じリスクを背負った人達が、事前にもど様な準備ができるが考える。そういう場面だった。普段、私が遭遇しない、あるいは避けて来た場面でもあり自発的に企画・運営している姿に強い衝撃を受けた。特定の場所に住むと決めていない私には、駅と自宅の関係しか存在しない。今回の台風で、リスクと隣合せで生きてきた事が身に沁みると、結構危うい状況である事に気づく。今回の講習会は、防災手段について聞きに行ったつもりだったが、人と人とのつながりや、まちづくりが大切と教えて貰う結果となった。そういう意味ではこの「防災」というテーマの入口は、多くの社会問題と近い関係にあるのかもしれない。

まちづくり自体には関心があるので、参加できた際には、是非この目線でも捉えて見てみたい。

最後に講習会中「自助・共助・公助」についても触れられた。日頃、建築の設計をしていると自助や公助についての接点はあるものの、共助についてはなかなか縁がない。講習会冒頭の挨拶で、今後建築士会の役割は益々重要となり、他業界との連携も期待されるとの激励があった。まさに共助だと思った。今回このような会に参加でき、私もその破片を頂く事ができた。ご多忙の中で準備された、建築士会防災委員会の皆様には心から感謝申し上げたい。

（横浜支部 繁田尊友）



講習会の様子

【アンケート結果】

□ 災害支援として、建築士はどのようなことが出来ると思いますか？（いくつでも選択可）

1 応急危険度判定・耐震判定（48%）

2 住宅相談（35%）

3 避難所設置（動線・ブース計画 15%）

□ 参加者ご意見

・災害について知らない事が多く考えさせてもらいました。

・幅広い内容の話であった。質問が少ないのが淋しかった。「防災は街づくり」でもある。防災が日常になるといいですね。

・GISの活用を町内で行っている内容は素晴らしいと思った。

・「共助」のベースとなる組織づくりがどうすればできるのか。既に「町会」は組織的活動のできないところが大半となってきている。

◆委員長から一言◆ (村島 正章)

あっという間に1年が過ぎていきますね。今年度も残りわずかですが、まだまだシンポジウムや研修会を企画していますので、掲示板等をご覧ください、奮って参加して、知見を深め、広く交流しましょう。

■建築環境部会 (石丸由美子)

令和二年。本年もどうぞよろしくお願いたします。

建築環境部会では、毎年様々な勉強会・講習会を開催しています。昨年は外皮性能および省エネ性能算出の連続勉強会(勉強会4回 体験会1回)を開催しました。各回ごとに省エネ基準の知識と計算の習得、基本となる用語の理解を深めていただき、あいだに夏冬の体験会をはさみ(冬の体験会は1月実施)モデル住宅で体感した記憶を計算書の数値と照らし合わせて数値の指標理解につなげ、今年2020年以降の小規模建築物・住宅の設計の際、建築士が建築主に対して省エネ性能の説明義務を果たすための技術向上を目指しました。

建築環境部会の常の議題、論題は、人が心地よいと感じる建築です。



心地よいと感じるを奥底に、毎年勉強会のテーマを決め、これまで各専門分野の講師を迎えての講習会や、環境・省エネセミナー、桜木町周辺の街歩き調査、川崎市日本民家園内の古民家の温熱環境実測調査及び体験会を開催してきました。

人が感じる快適性を数値化することは、集団の快適性の判断や技術的に扱う上では必要不可欠です。均質な快適性は、いまの技術と数値上の指標を満たすことで表すこともできますが、人の本来もっている心地よいと感じることは、たとえば気候風土に寄り添って培われた伝統的な建築や素材、地域の人々の暮らしの知恵から生まれることも多くあります。

建築環境部会では、心地よいと感じる様々な境目を、勉強会から生まれた造語、環境を感境とよみかえ「感境建築」としています。

人が心地よいと感じる「感境建築」を感覚と技術の両面から伝えられるよう今年も活動していきます。

■福祉部会 (児玉 卓)

令和元年7月27日(土)、パシフィコ横浜で福祉部会第1回見学会として、「ヨコハマ・ヒューマン&テクノロジー」福祉関連展示会 体験ツアーを開催しました。

今回は横浜リハビリテーションセンター研究開発部工芸技士の西村氏をお迎えし、会場内の見学・福祉機器の体験の後、改修予定の図面を使って福祉機器を取り入れるワークショップを行いました。

まず西村氏から展示会の概要説明があり、続いて会場内を見学。展示ホールD内には90以上のブースが設けられており、まず、移動のためのリフトを体験しました。様々なタイプのリフトが展示され、特に開口部や梁をくぐり抜けるタイプの製品は寝室や居室から浴室へなど長い距離の移動が可能となり、介助の負担を楽に出来ると感じました。



電動車椅子の体験

次は階段昇降機です。展示されていたものは曲がり階段に対応した曲線型階段昇降機でした。普段のイメージよりスリム・コンパクトで、生活の場が複数階にまたがる



移動リフトの体験

場合はとても有用との印象を受けました。(建築基準法上の取扱いは後日の宿題です。)

さらに視覚・聴覚がテーマのブースで、「色」と「見えにくさ」の関係を弱視シミュレーションメガネを使って体験し、改めてカラーバリアフリーの大切さを認識しました。

会場を見学後、会場の一角でワークショップ・意見交換会を実施。高齢夫婦と長男家族が住む2階建ての二世帯住宅が設定され、現在の改修要望に加え、将来的に想定される改修も織り込んだプランの作成がテーマでした。福祉機器の導入は将来見込まれる介護へ対応するものでしたが、現在の暮らしの改善と将来の介護を見越した改修の折り合いをつけるのが悩ましく、今の暮らしを大切にするか、将来の改修を見込んだ設計をするのか、実際の依頼主への説明も難しいと感じました。

住環境のユニバーサルデザインについては勉強しているつもりでしたが、バリアフリーの最新情報に触れ、また実際の福祉機器を体験出来たことは大きな収穫であり、それを建築士として依頼主への提案につなげていきたいと思えた研修会となりました。

【建築士が考えた癒しとパワースポットの旅】

福利厚生委員会研修旅行

横須賀支部 高戸 憲一

令和元年9月7日(土)～9月8日(日)の日程で、福利厚生委員会の研修旅行に参加しました。

旅先は一日目群馬県の水沢観音に始まり、榛名神社～榛名湖～草津温泉。二日目は八ッ場ダム～軽井沢タリアセン～帰路。と二日間参加者の皆さんと楽しく過ごせました。

一日目、“癒しとパワースポット”と謳った旅行そのまま、水沢観音では六角堂の地蔵尊を廻して自分を癒し、鐘楼の鐘を突き、音色が消えていくまでのひと時に心を落ち着かせてきました。

榛名神社では本殿までの700メートルの道のりを巨大な杉の木たちから見下ろされ、沢山のマイナスイオンを貰いながら歩き、忙しい日々で枯れかけた身体と心が復活?して来るのを感じました。また巨岩奇石の隙間をぬって境内が形作られているのを見るに、人と自然の共存の正解を見た気がしました。



榛名神社での集合写真

宿泊地、日本三名泉の一つである草津温泉でゆっくり体を温めた後の食事に舌鼓を打ち、一日目の感動冷めやらぬ中、仲間たちと美しくライトアップされた湯畑にくり出し、足湯に浸かりながら、異国の旅行客(綺麗な女性でした)と持参した焼酎で、つかの間、お互い片言で語り合いました。実際に交わした言葉は少なくとも、旧知の仲のような雰囲気の中での国際親善でした。

二日目、八ッ場ダムを訪れ、改めて自然との対峙を考えさせられ、軽井沢タリアセンでは歴史的建造物と自然溢れる軽井沢を楽しく散策しました。

盛りだくさんの二日間でしたが、すっかり心も体もリフレッシュ出来た研修旅行でした。

帰宅後…まさか、その後に台風15号、19号の甚大な被害が出るとは想像だにせずに…

【第3回 モブトークを開催して】

青年委員会 伊藤 誠一

11月13日(水)平沼レストハウス3号会議室にて第3日目となる『モブトーク』を開催いたしました。

『モブトーク』とは?

次世代育成や新たなる青年層の獲得を見据えて、会員だけではなく非会員の若手建築士を招いて隔月で座談会方式にて開催しています。また、その運営を委員長ではなく、副委員長が企画、当日進行等を行う事で委員会を次世代に継ぐことも、目的としています。

隔月で行うこの『モブトーク』も3回目となり毎回参加してくれる非会員の方々や青年委員会に所属をしていない若手建築士と、今後どのような活動をこの青年委員会を交えて行うことが必要か?また今後、建築士会がどうあるべきかの話しをしていると、建築士会に所属していて気づかない事の多さに驚きます。

『モブトーク』では日頃考えていることや共創、コミュニティ、知識、等自由な発想をお互いの尊重を交えて参加者がそれを共有しながら進めていきます。今後はカテゴリー別のテーマについてのディスカッションを行い参加者の要望を取り入れながら、失敗談や自己プレゼン会また、短期実践が可能な活動(モブトークスピンオフ企画)等を行っていきたいと思います。



第4回目は外部に出ていき出張モブトークを企画しています。参加者で手や頭を働かせ、色々な経験を体験しながら参加者同士の継がりをもっと楽しめるような企画としていき、今後このモブトークを活用して多くの参加者みんなが楽しみ、学びとなり若手建築士の新たなコミュニティの場になる様に頑張っていきたいと思います。

【令和元年度「熱闘建築甲子園」の実施報告】

総務企画委員会 宮林 正彦

「熱闘建築甲子園」は、昨年度からスターとした新しい目の事業です。

ネーミングも内容も少し類似した事業に（公社）日本建築士会連合会が主催する「建築甲子園」がありますが、こちらは、全国規模で実施され、本年度でちょうど 10 回目を迎えた老舗の事業です。建築教育課程を専攻している高校生が、先生（監督）の指導もとにチームを結成し、建築に関する作品を提出します。全国規模で競い合い（コンペ）、最優秀の作品を優勝として表彰しようとするものです。まさに甲子園を舞台とした全国高校野球選手権大会のようですね。

次に、我が方の「熱闘建築甲子園」です。県内のオール高校生が対象で、特に先生の指導付きを条件ともせず、どちらかといえば普通科・建築課程外の生徒をターゲットとしているとも言えます。事業内容も作品の提出に限らず、建築関係会社でのインターンシップ（就業体験）や、建築に関する講座（子どもの生活環境部会に実施依頼）、建築士試験の監理補助員のアルバイトまで選択できるというものです。

この事業のコンセプトとしては、通常の建築士会の事業が、ともすれば会員外を含めた「建築士」を対象としがちなのに比べて、これから建築士を目指そう、または、そこまでの意志はなくとも建築に感心がある高校生を対象として、将来的に建築士・建築関係の仕事に就いてもらおうという、いわば、建築士の卵にも満たない種まきを行おうとするものです。効果のほどはすぐには図ることはできませんが、こういった超地道な取組がいつか花咲く時があるさ、的なノリの事業です。

さて、前置きが長くなりましたが、今年度の実施内容についてのご報告です。

本年度は2名の参加者でした（少なくて少々残念）。お二人は、同じ学校の友達で、将来は建築に関係する仕事に就きたいということです。

まずは、8月に設計事務所でのインターンシップを2日間実施し（横浜市内の(株)米澤設計さん）、米澤代表取締役による建築士の仕事内容の説明や、建築施工現場の視察も行いました。また、子どもの生活環境部会による作品制作講座として、フリートークを交えて楽しいひと時を共有しました。その間に、お二人とも建築士試験の監理補助員も体験しています。

最後には、三世代が同居する新しい生活スタイル型の施設と、斜面を活用したコンクリートの家々をテーマとした作品を、それぞれ提出していただきました。

先日、お二人の学校を訪問して参加を紹介してくださった先生への御礼と、賞状と記念品を贈呈しました。



参加者の
須藤君(左)と
蒲谷君(右)

お二人からは、有意義な時間を過ごせた等の感想をいただいております。

お二人の将来に幸あれ！！、ですね。

【建築に関する講座】

技術支援委員会子どもの生活環境部会 宇野 素子

8月19日、熱闘建築甲子園のうちの一つとして高校生向けの講座を子ども部会が講師として行いました。

この講座は当初はコンペに提出する作品を作成するにあたり、建築の授業を受けたことのない高校生のための作品制作講座として依頼を受けました。しかし以前高校生と話した時、建築を目指す普通科高校生が建築という仕事についてほとんど知識がなく、進学先の情報にも詳しくないことを知りました。そこで私たち子ども部会としては作品のアイデアや製作の仕方だけでなく、導入として建築の仕事が多岐にわたること、自分がしたいと思っている建築の仕事をするにはどこを受験すべきかなど、建築を目指す高校生へのキャリア講習も兼ねた内容とし、今年度は次のような順番で行いました。

- ①自己紹介
- ②建築についてどうなことを考えているか、興味を持っていることなど
- ③建築や建築士についての話パワーポイントにて、
- ④作品の応募について
- ⑤プレゼンシートを作ってみよう。

本年度の参加者は工業技術電気コースの男子高校生2人で建築の仕事につきたいと考えていたところ部活顧問の先生から勧められ参加してくれました。部活として情報研究会に入っており JW-CAD やパワーポイ



ントの操作にも慣れていました。建築が好きだという二人からどんな建築が好きか、どんな仕事をしたいと思っているかなどのお話を聞きました。建築の仕事では図面や模型、スケッチで思い又は情報を共有します。人に思いを伝えることが重要で、まずは自分が伝えたい思いをわかりやすくし、伝わるようにすることが必

要で、そのためにコミュニケーションをとることも大切だと話しました。コンペに作品を出すことにあまり積極的ではなかったものの、一人一台ずつパソコンを渡し作品のヒントが出てくるようワークシートに書きました。

高校生たちの自分なりの思い。それが一番楽しみです。

支部長委員長会議・理事会報告

令和元年12月3日(火)に(一社)神奈川県建築士会会議室において「令和元年度第3回支部長委員長会議」が、また同日神奈川新聞社販売協同組合・組合ホールにおいて「第370回理事会」が開催されました。令和元年は豪雨や台風等による自然災害が多かったことを顧み、両会議において会員の皆さんに関する防災関連の議題が取り上げられましたので、その主な議事内容等を要約して報告いたします。

【第3回支部長委員長会議】

支部長委員会会議では議題として「被災建築物応急危険度判定等に係る協力に関する協定」に基づく参集要請の方法の検討について挙げられました。席上、被災建築物応急危険度判定士の登録状況が報告され、神奈川県内で10,990名、うち建築士会会員は1,103名との報告がありました。今後、メーリングリスト等による連絡網を検討していく予定です。

【第370回理事会】

支部長委員長会議終了後に行われた第370回理事会では「建築士会主催の各種催物における災害時等対応の事前周知方法について」が議題に挙げられました。対象となる催物等は建築士会(支部・委員会を含む)が主催する、試験、定期講習、講習会、説明会、見学会、リクリエーション等で、事前周知の方法としては、①開催通知等に本建築士会が所有する電話番号を記載し当日の緊急連絡先を周知する、②開催通知等に災害等を想定して本会のホームページにアクセスできるアドレスやQRコードを記載する、③として①②とした場合や、開催通知等に事前に記載できない等の場合でも、災害等が想定される時期から本建築士会のホームページに掲載して周知を図る、としています。建築士会主催の各種催物に参加される場合、自然災害等が想定される場合には本建築士会のホームページを確認するなど心掛けていただきたいと思います。

第369回理事会(9月30日(月))、第370回理事会(12月3日(火))で入会承認された皆様です。

(敬称略、支部別・五十音順)

■ 正会員 (30名)

《横須賀支部》

桑島 正明 官公庁
佐藤 恭士 工務店

《中支部》

熊澤 悟史 建築士事務所

《小田原地方支部》

石黒 達也 建築士事務所
磯崎 輝雄 建築士事務所(再)

《川崎支部》

伊勢谷 未羽 不動産業
奥野 達也 不動産業
唐鎌 涼 建設業
佐藤 廉 建設業
山田 淳也 建築士事務所

《相模原支部》

樋口 伸彦 建設業

《県央支部》

田中 健太 建設業
渡 まゆみ 建築士事務所
茂木 章一 建設業(再)

《湘南支部》

梅崎 裕子 建築士事務所
近藤 昌広 建築士事務所
吉田 公人 建築士事務所(再)

《横浜支部》

井戸向 隆 建築士事務所
神田 陸匡 官公庁
北林 さなえ 建築士事務所
清瀧 彩加 建築士事務所
繁田 尊友 建築士事務所
進藤 美寿々 その他
菅股 篤 その他

高瀬 友基 建築士事務所

長谷川 睦乃 建設業

松下 時彦 建設業

三森 大 建設業

村上 夏樹 建設業

神谷 展行 建築士事務所(再)

友野 榮治 その他(再)

守屋 浩 建築士事務所(再)

《県庁職域支部》

久米 邦明 官公庁

東國 佳子 官公庁

《県外》

加藤 聖也 建築士事務所

竹本 絢 建築士事務所

西山 洋二 建築士事務所

渡邊 二郎 建築士事務所

■ 賛助・特別会員 (6社)

(株)アイディーエム 不動産業、(株)IDMobile 建築士事務所、(株)栄住産業 建材業
東リ(株)横浜営業所 建材業、三井ホームコンポートネット(株) 建材業、(株)夢ハウス 工務店

活性化特別委員会からの報告

建築士会「組織・委員会再編」の検討状況

活性化特別委員会 副委員長 長瀬光市

活性化特別委員会が7月に設置され、現在までに5回の検討が行われ、「組織・委員会再編の目的」「委員会活動の検証」「組織・委員会再編の視点とあり方」について議論した内容について報告します。

社会状況の変化と建築士会

我が国は、人口減少・経済低迷など、過去に経験したことのない多くの重大な困難に直面しています。拡大成長時代につくられた社会システムは、疲弊し、随所に綻びが生じています。

資格者・職能団体である建築士会では、会員の減少、組織の高齢化、委員会・支部活動を担う人材の減少が課題となっています。一方、社会が建築士に求めている責任と期待を踏まえ、神奈川県建築士会の役割を最大限果たすために、建築士の資質・技術とモラルの向上が求められています。

このような、矛盾する課題に挑戦し、本会活動の一層の充実と会員サービスの強化、会員のスキルを高めていくためには、組織のマネジメント強化と委員会再編に取り組む必要があります。

組織・委員会再編の目的

- ① 会長・副会長を中心としたマネジメント機能の強化を図る（会長・副会長等を中心とした「組織・財務運営」「会員支援・スキル向上」「社会貢献活動の充実」の視点を踏まえた実行力のある執行体制の構築）。
- ② 建築士のスキルアップを図る（個々の会員の有する知識、技術、ノウハウ等を引き出し、支部活動、委員会活動により研鑽を積み重ね、会員と職能団体としてのレベルアップを図る）。
- ③ 建築士会の社会貢献を推進する（多様な職種で磨き上げた技術やノウハウを活かし、社会課題にアプローチし、公的職能団体として社会的役割を果たす）。
- ④ 建築士会の活性化と次世代担い手の育成を図る（前例主義、マンネリ傾向を改善し、常に委員会の新陳代謝を高めて、様々な世代が連携する組織の構築と次世代の担い手を育成と活用を図る）。

組織・委員会の検証

本会には10の常設委員会が設定され、17年が経過し、組織・委員会活動に様々な疲弊や課題が生じています。

- ① 世代に特化した青年委員会は、建築士会活動の基盤を担い、次世代担い手のインキュベーター機能を有しています。性別に特化した女性委員会は、テーマ型活動で多くの実績をあげてきました。本会のシニア層の交流活動も活発化しています。このような実績を継承・発展させ、新たな建築士会の活力に変えていく視点が重要となります。

- ② 委員会活動の最大の課題は、活動者が限定され、一人の委員がいくつもの委員会を受け持つなど、新陳代謝の低下や人材発掘の遅れが指摘されています。委員会によっては、事業計画や事業活動のマンネリ化や前例主義の風土が温存されるなど、社会の要請に的確に応える仕組みになっていない傾向が見受けられます。
- ③ 「建築士や建築士会のあり方」や「財務運営」に係わる、委員会機能を強化し、社会の要請や関係団体からの依頼、要望に対して、迅速に的確に応えていく体制に必ずしも、なっていない実態を踏まえ、組織の再構築が必要となります。
- ④ 建築士は常に、変化多様化する、技術・施工・法規・まちづくり等の情報の取得とスキルアップの向上に寄与する会員サービスや研修・講習・情報提供のあり方について改善していく必要があります。
- ⑤ 会員間の交流や支部活動と本会活動との連携を強化やより一層の会員サービス充実に向けた取り組みが重要となります。

組織・委員会再編の視点とあり方

建築士会の定款、事業目的を踏まえ、組織・委員会の検証、会員からの要望や委員会ヒアリングなどを通じて組織・委員会再編の目的を実現するために、以下の視点から、「建築士会組織・委員会再編案」を年度内に取りまとめていきます。

- ① 会長・副会長を中心としたマネジメント機能の強化を図るために、会長・副会長、常任理事の役割の明確化と副会長を中心とした3事業本部制による委員会構成のあり方を検討します。
- ② 建築士のスキルアップを図るために、建築士として絶えず自己研鑽を積み、社会の要請に的確に応えていくために、技術向上を図る研修・講習機会を強化する委員会再編を検討します。
- ③ 建築士会の活性化と次世代担い手の育成を図るために、会員力を強化し、青・壮・老・女性の連携・融合を促す組織・委員会のあり方を検討します。
- ④ 会員交流、会員サービスの強化を図るため、会員の交流活動を支援する委員会を検討します。
- ⑤ 建築士に求めてられている社会課題に貢献する委員会の機能強化、再編を検討します。
- ⑥ 委員会活動がわかりやすい名称と委員会活動の重複を限りなくなくす組織のあり方を検討します。

2019年度内の組織・委員会再編のグランドデザイン提案をめざし、社会が建築士に求めている責任と期待を踏まえ、神奈川県建築士会の役割を最大限果たせるよう、本会組織運営のマネジメント強化、会員のスキル・技術の向上と会員サービスの強化を図る組織改革に取り組んでいきます。

会員の皆さん、委員会各位のご理解とご協力をお願いします。